

原發性同時性多發性胃癌 2 例ニ就テ

金澤醫科大學久留外科教室(主任久留勝教授)

相野田 芳 教

Yosinori Ainoda

(昭和21年4月23日受附)

第1症例, 43歳, 男子. 胃癌ノ診断ニテ胃切除術實施. 切除胃ヲ檢スルニ, 幽門部ハ殆ンド硬キ腫瘤ニテ占メラレ僅カニ前壁一部ニ胃粘膜ヲ殘存ス. 該腫瘍ハ中心部徑 3.0×2.5cm 大ノ潰瘍ヲ形成シ邊緣ハ堤防狀ニ隆起ス(T₁). 胃體部ニ移行スル部分ノ粘膜ハ Etat mamelonné ヲ呈ス. 然ルニ後壁ニ於テ T₁ ヨリ 4cm 距リテ拇指頭大稍軟キ突出物アリ (T₁). T₄ ヨリ更ニ 2cm 噴門側ニ淺キ潰瘍ヲ作り徑 3.0×2.5cm 大略圓形ノ腫瘍アリ (T₂). 又胃前壁ニテ, T₁ ヨリ約 10cm 距リテ T₂ ト似タル肉眼的性狀ヲ有スル徑 5.0×4.5cm 大ノ腫瘍アリ (T₃). 組織學的ニ檢スルニ, T₁ ハ處々膠樣變性ヲ示ス 腺癌ニシテ胃壁全層ヲ侵セリ. T₂ ハ周圍トハ比較的明カニ境サレ深部ニ向ツテ浸潤シ筋層ニ達ス. ソノ附近ニテ大ナル動脈周邊ニ及ビ, 其ノ側ニ存在スル靜脈内腔ニ浸潤セリ. 腫瘍實質細胞ハ T₁ ノ其ニ近似スルモ, 深部及ビ邊緣ニ向ツテハ一見充實性癌ヲ思ハシム. 間質中ニ Van Gieson 氏染色ニテ明カニ黃色ニ染ム平滑筋纖維介在セリ. T₃ ハ T₂ ト同様ナル組織像ヲ呈スルモ, 浸潤ハ一層強ク既ニ筋層ヲ貫キ漿膜下ニ達セリ. 核分裂像多ク, 靜脈内浸潤モ證明シ得. T₄ ハ萎縮セル胃粘膜ニ被ハレ, 粘膜筋層ト筋層トノ間ニ大豆大ノ大サヲ有スル輸尿管ヨリナル Choristom ナリ. 其ノ間質ハ少ク, 内ニ平滑筋纖維相錯綜シテ介在ス. 其ノ實質タル腺管樣構造物ハ粘膜筋層ニ直接スルモ胃内腔ニ開口シアルヤハ不明ナリ. 其ノ他胃粘膜ハ一般ニ炎衝像ヲ呈シ, 胃體部粘膜及粘膜下組織ニ Brunner 氏腺散在スルモ, 各腫瘍相互間ニ何等從屬的因果關係ノ存在ヲ疑ハシムル所見無シ. 所屬淋巴腺轉移ヲ證明シ, 左胃動脈部分ニテハ大ナル血管周圍ノ淋巴腔内ニ癌細胞ノ栓塞セルヲ認メタリ.

第2症例, 57歳, 男子. 同ジク胃癌ノ診断ニテ胃切除術實施. 切除胃ヲ檢スルニ, 幽門部大彎側及胃體部前壁ニ 2 個ノ腫瘍アリ. 兩者ハ辛フジテ正常胃粘膜ニ

テ境セラル. 前者 T₁ ハ 2.0×3.5cm 大, 後者 T₂ ハ 10.0×7.0cm 大ニテ, 夫々淺キ 癌潰瘍ヲ形成ス. 尙 T₂ ノ邊緣ニ 拇指頭大及小指頭大ノ柔軟ナル疣狀突出物アリ.

組織學的ニハ, T₁ ハ丈高キ 圓柱細胞癌ニシテ 幽門輪ニ達シ深部ニ向ツテハ漿膜直下迄浸潤セリ. 隣接スル T₂ トハ, 粘膜層ニテハ正常粘膜ニテ境サレ, 粘膜下組織ニテハ極メテ狭キ組織ヲ以テ相接シ, 一部互ニ癒合セントスル部分アリ. T₂ ハ T₁ ニ接スル部ハ T₁ ト同様ナル腺癌狀ヲ呈スルモ, 其ノ實質細胞ノ性狀ハ趣ヲ異ニシ丈低キ散子狀細胞ヨリ成リ一部膠樣變性ニ陥レリ. 腫瘍深部及他ノ方向ニ向ヒテハ髓樣癌ノ像ヲ呈ス. T₂ ノ邊緣ニ存在セル 2 個ノ「ボリーブ」ハ共ニ腺腫ナリ. ソノ他胃粘膜ハ一般ニ慢性炎衝狀ヲ呈シ, 處々腸上皮細胞アリ. 淋巴腺ニハ髓樣癌性轉移ヲ證明ス.

凡ソ胃ニ於ケル多發性癌腫ハ文獻ニ徵スルニ極メテ稀ナリ(久留⁽¹⁾, Warren and Gates⁽²⁾, Theilhaber 及ビ Edelberg⁽³⁾, Borrmann⁽⁴⁾, 矢吹⁽⁵⁾). 一方副脾ニ關スル諸家(士肥⁽⁶⁾, 根鈴⁽⁷⁾, 河崎⁽⁸⁾, 鈴木⁽⁹⁾, 福田⁽¹⁰⁾)ノ報告尠カラザルモ, 之ガ癌性化症例ハ稀ナリ(Thierfelder⁽¹¹⁾, Pforringer⁽¹²⁾, Scagliosi⁽¹³⁾, Benjamin⁽¹⁴⁾, Beutler⁽¹⁵⁾, Askanazy⁽¹⁶⁾, 西條⁽¹⁷⁾). 一般ニ副脾ノ如キ異所性上皮組織ハ腫瘍發生ノ好發部位タルハ Cohnheim 以來諸家ノ疑ハザル所ナルモ, 實際上カハル異所性組織ヨリノ發癌例ハ決シテ數多キモノト言フベカラズ. 第1症例ハ胃ニ副脾併存シ夫々獨立シテ見ラレタル 3 個ノ腫瘍ハ實質ノ構造, 細胞ノ性狀竝ニ間質ニ介在スル筋纖維等ヨリシテ, 胃ノ副脾組織ノ癌性化セルモノナ

ルベキヲ推察シ得。第2症例ハ2個ノ獨立セル癌腫ノ外、腺腫性「ポリープ」ノ併存ヲミタリ。由來腸管「ポリープ」ノ癌性化進ンデハ多發性癌性化ノ問題ハ諸家ニヨリ論ゼラル、處ナルモ (Westhues⁽¹⁸⁾, 久留⁽¹⁹⁾, Staemmler⁽²⁰⁾), 腸管「ポリープ」中ニテモ胃「ポリープ」ハ頻度稀ナルニ反シ癌性化頗ル高率ナレバ癌前驅期ト見做シテ然ルベシト言ハル (山川⁽²¹⁾, 田宮⁽²²⁾)。本邦ニテモ興味アル報告例少カラズ (山極⁽²³⁾, 川上

⁽²⁴⁾, 沓掛⁽²⁵⁾, 田宮⁽²²⁾, 長島, 鹿又⁽²⁶⁾, 角井⁽²⁷⁾, 清水, 藏木⁽²⁸⁾)。第2症例ハ腺腫ニ種々ノ共通點ヲ有シ, 腺腫ガ何等カノ外的内的要因ニヨリ悪性化シ, 茲ニ多中心性ニ癌腫ガ發生セルモノト認ムルヲ得。

摺筆ニ當リ御懇篤ナル御指導御校閲ヲ賜ハリタル恩師久留教授並ニ御教示ヲ辱フセル本學病理學教室中村八太郎名譽教授ニ謝意ヲ表ス。

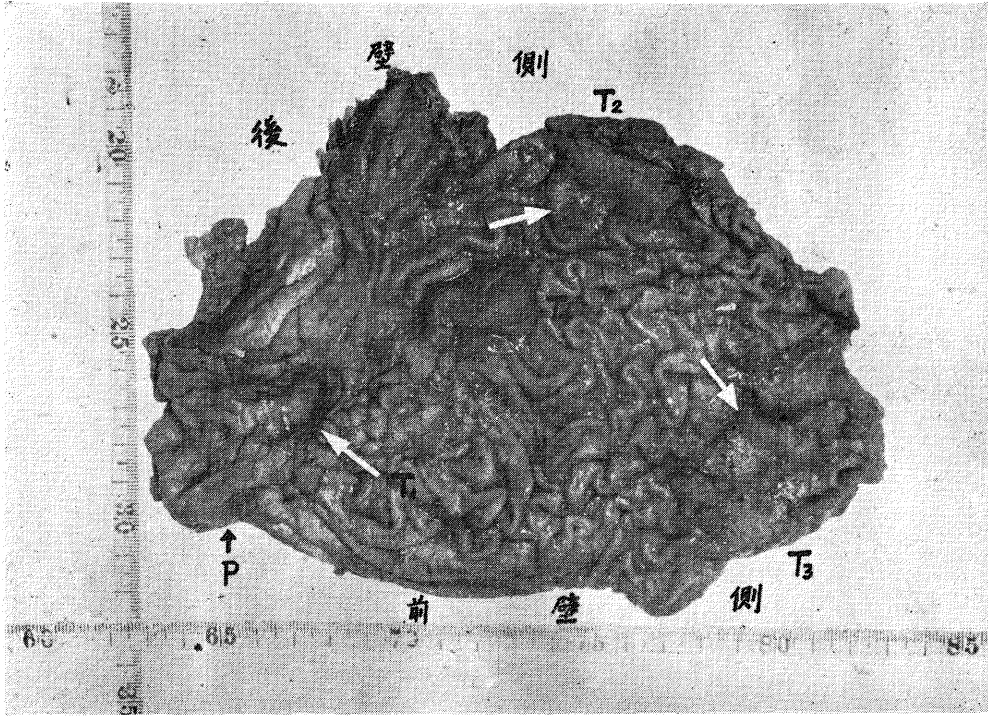
文 獻

- 1) 久留勝, 大阪醫事新誌, 7, 1083 (昭和11年).
- 2) Warren and Gates, Amer. J. Canc., 16, 1358 (1932).
- 3) Theilhaber u. Eczelberg, Dtsch. Z. Chir., 117, 455 (1912).
- 4) Borrmann, Handbuch d. spez. path. Anat. u. Hist., herausgegeben von Henke u. Lubarsch, Berlin, IV/1, 1926, 862.
- 5) 矢吹四郎, 日本外科學會雜誌, 42, 1388 (昭和16年).
- 6) 土肥清正, 日本醫學及健康保險, 3241, 17 (昭和16年).
- 7) 根鈴齋史, グレンツゲビート, 15, 127 (昭和16年).
- 8) 河崎外美雄, 癌, 37, 1 (昭和18年).
- 9) 鈴木庄一, 北越醫學會雜誌, 51, 371 (昭和11年).
- 10) 福田源治, 十全會雜誌, 47, 1589 (昭和17年).
- 11) Borst, Geschwulstlehre, Wiesbaden, 2, 1902, 特ニ768.
- 12) Pförringer, Beitr. klin. Chir., 41, 687 (1904).
- 13) Scagliosi, Virch. Arch., 214, 220 (1913).
- 14) Benjamin, Ann. Surg., 67, 293 (1918).
- 15) Beutler, Virch. Arch., 232, 339 (1921).
- 16) Askanazy, Dtsch.

- med. Wschr., 1, 3 u. 2, 49 (1923).
- 17) 西條夏賀, 日本内分泌學會雜誌, 3, 93 (昭和2年).
- 18) Westhues, Die path. anat. Grundlagen d. Chir. d. Rektumkarz., Leipzig, 1934.
- 19) 久留勝, 日本外科學會雜誌, 41, 132 (昭和11年).
- 20) Staemmler, Die Neubildungen d. Darmes, herausgegeben von Reichel u. Staemmler, Stuttgart, 1, 1924.
- 21) 山川章太郎, 臨牀ノ日本, 8, 717 (昭和15年).
- 22) 田宮知龍夫, 野崎英夫, グレンツゲビート, 9, 557 (昭和10年).
- 23) 山極勝三郎, 癌, 2, 309 (明治42年).
- 24) 川上漸, 癌, 6, 210 (明治45年).
- 25) 沓掛諒, 癌, 22, 1 (昭和3年).
- 26) 長嶋幸一郎, 鹿又貞次郎, 東京醫事新誌, 3060, 3074 (昭和12年).
- 27) 角井榮男, 日本外科學會雜誌, 36, 2702 (昭和11年).
- 28) 清水勝, 藏木稔, グレンツゲビート, 6, 1591 (昭和7年).
- 29) 鈴木四郎, 三浦和平, グレンツゲビート, 9, 795 (昭和10年).

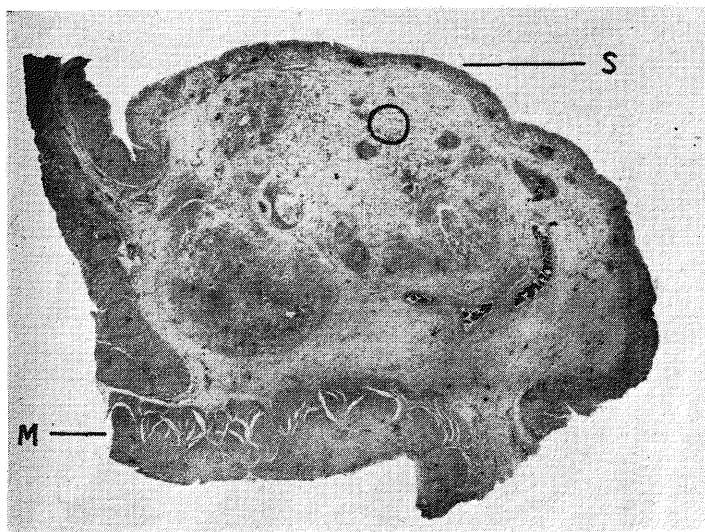
相野田論文附圖 (1)

附圖第 1



(症例第 1) T₁ T₂ T₃……腫瘍 T₄……副睪 P……幽門輪

附圖第 2



(症例第 1) 副睪 S……萎縮胃粘膜 M……筋層

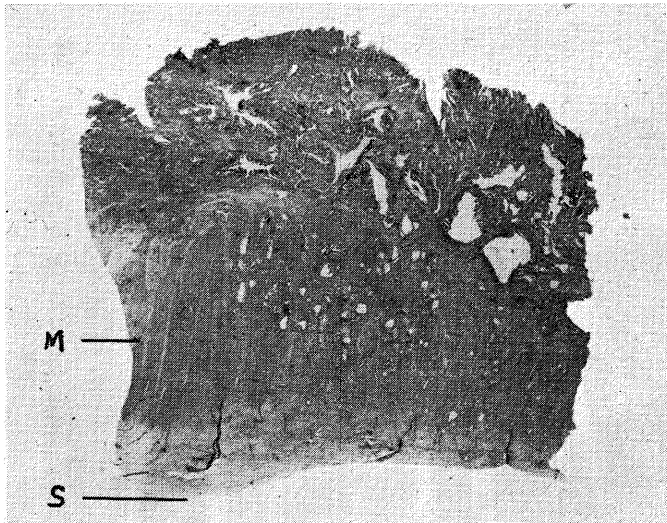
相野田論文附圖 (2)

附圖第3



(症例第1) ワンギーソン染色
附圖第2圓内強擴大 M……平滑筋纖維 D……腺管

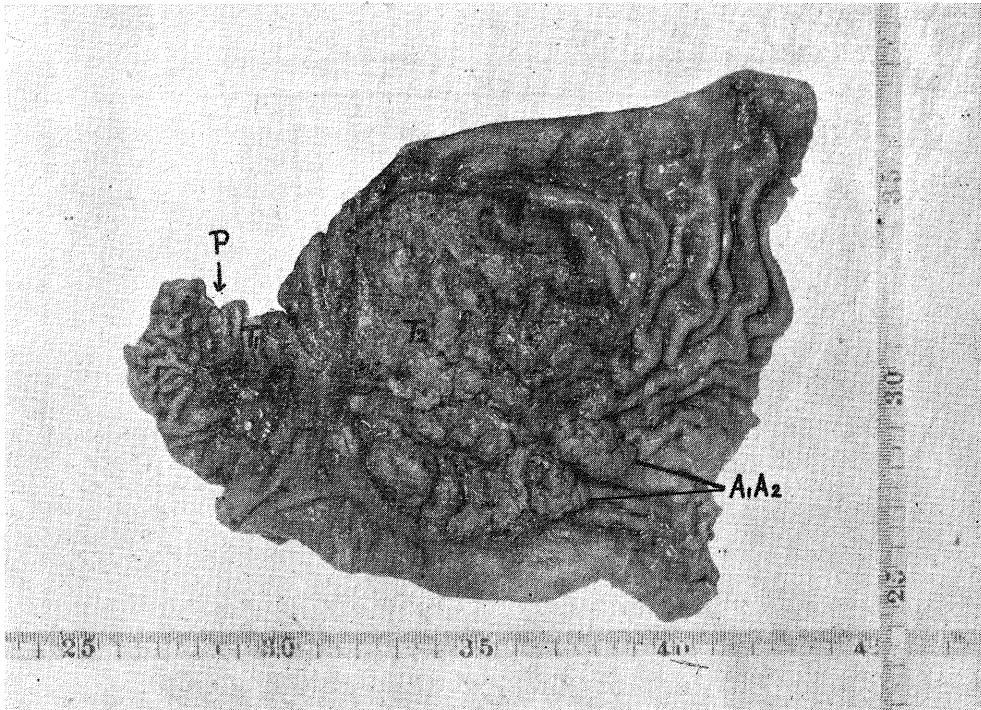
附圖第4



(症例第1) T₁ 弱擴大 M……筋層 S……漿膜

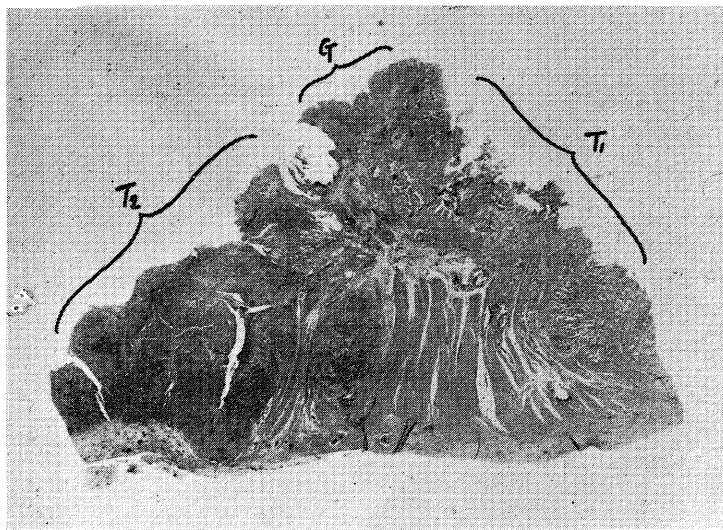
相野田論文附圖 (3)

附圖第 5



(症例第 2) T₁ T₂……腫瘍 A₁ A₂……腺腫 P……幽門輪

附圖第 6



(症例第 2) T₁ T₂ 兩腫瘍境界部弱擴大
T₁……高圓柱細胞癌 T₂……骰子狀細胞癌一部髓樣癌 G……境界部胃粘膜